

Global Trade Tracker(GTT)は、世界各国の公式貿易統計を収録したオンラインデータベースになります。大学研究におかれましては、国際経済、貿易論、経済史、産業研究、地域研究、政策研究、経営学、データ分析教育など、複数分野の研究・教育基盤としてご利用いただけます。

1. 収録概要

項目	内容
対象地域	世界 200 以上の国・地域の輸出入統計を収録
データ種別	輸出、輸入、相手国別、品目別、再輸出・再輸入等の貿易データ
分類体系	HS コード(Harmonized System Code)に基づく商品分類。国・地域により詳細桁数(8~10 桁)での分析にも対応
収録期間	1988 年以降の長期時系列データを収録。主要統計は HS((Harmonized System)制度開始以降の分析に有効
更新頻度	各国政府・税関・統計機関等の公表状況に応じて更新(月次/年次更新)
データ粒度	国別、相手国別、品目別、月次・年次での検索・比較
主要指標	金額、数量、単価など。市場規模・取引量・価格動向の分析に活用可能
利用方法	Web 画面での検索・可視化、CSV 等のダウンロード、API 連携
主な利用者	経済学、経営学、国際関係、地域研究、農学、工学、政策研究等の教員・学生・研究者

2. 大学図書館での主な活用用途

研究利用	教育・授業利用
<ul style="list-style-type: none"> 国際貿易・産業構造の長期変化分析 国・地域別の輸出入構造、依存度、競争力の比較 経済制裁、関税、地政学リスクが貿易に与える影響の検証 農産物、資源、化学品、機械、半導体等の品目別分析 卒業・修士・博士論文における実証データとしての利用 	<ul style="list-style-type: none"> 貿易統計・HS コード・データリテラシー教育 Excel、統計ソフト等と組み合わせたデータ分析演習 国際経済、地域研究、政策分析、経営戦略の授業教材 学生が自ら仮説を立て、国際比較データで検証する実践型学習 図書館主催のデータベース講習会・研究支援セミナー

3. 研究分野別の活用例

分野	利用例	図書館・研究での利用用途
国際経済・貿易論	国別・品目別の輸出入推移、貿易構造の変化、比較優位分析	授業・研究双方で利用価値が高い
経済史・産業史	長期時系列での産業構造・貿易構造の変遷分析	歴史的データと現代データを接続した研究テーマで活用
経営学・商学	海外市場調査、調達先・販売先の国別分析、競合国比較	実務に近いデータを使ったケーススタディも可能
地域研究・国際関係	特定国・地域の貿易依存、制裁・紛争・政策変更の影響分析	地域研究者にも使いやすい客観データとして提供可能
農学・工学・資源研究	食料、資源、素材、部品、エネルギー等の品目別需給分析	理系分野にも利用範囲を広げられるデータベース

4. 活用可能性

GTT は、世界各国の公式貿易統計を、国別・相手国別・HS コード別・時系列で検索できるデータベースです。国際経済、貿易論、経営学、地域研究、政策研究など幅広い分野で利用でき、学生のデータ分析教育や研究者の実証研究を支援します。図書館が提供する研究基盤データベースとして、文系・理系双方に横断的な利用が可能なサービスになります。

5. 下記対応をしておりますのでお気軽にお問い合わせください

- 図書館・教員・大学院生向けデモの実施: 実際の研究テーマに合わせた検索例を提示
- 講習会: 図書館主催のデータベース講習会、ゼミ・授業内デモとして実施

6. お問い合わせ先

GTT サポートチーム : support.japan@globaltradetracker.com

はじめに

Global Trade Tracker (GTT)アナリティクス

国別貿易フロー検索機能のご紹介

このガイドでは、GTT で最初の検索を実行する一連の手順をご説明します。番号付きのステップに従い、注釈付きのスクリーンショットを参考にご利用ください。

説明内容

- レポーター国と貿易フローの選択
- 相手国(パートナー国)の選択
- 適切な HS コードの検索
- 期間の設定
- データの粒度の選択
- グリッドの閲覧と並べ替え
- エクスポートとグラフ表示

以下の画面は GTT 分析(検索)の最初の画面になり、赤い番号はそれぞれこのガイドのステップに対応しています。



#	フィールド	機能説明
1	レポーター国	貿易データを照会したい国になり国名または ISO コードを入力し始めると、GTT がリアルタイムで候補を表示します。
2	貿易フロー方向	貿易の方向を選択します—「輸入元」または「輸出先」。矢印をクリックして切り替えます。
3	相手国(パートナー国)	貿易の相手方となる国になり空白のままにするとすべての相手国が表示されます。
4	HS コード/商品	商品の説明またはコードを入力し「探索」リンクを使用して HS の階層全体を閲覧できます。
5	期間	期間を設定します—固定の期間またはローリング「最新」期間のいずれかになります。
6	レポート生成	クリックしてクエリを実行し、下のグリッドに結果を表示します。

7	グループ化	時間列表示で結果をどのようにグループ化するかを制御します一月、四半期、年など。
8	Excel にエクスポート	グラフ付きで現在のレポートを Excel ファイルにダウンロードします。
9	グラフ表示	グリッド表からビジュアルグラフに表示を切り替えます。
10	グリッド列リンク	任意の列ヘッダーリンクをクリックして、レポートの行と列を入れ替えます。

1 レポーター国を選択する

「レポーター国」フィールド①に、貿易統計を照会したい国の名前または ISO コードを入力します。GTT の**先読み検索**機能により、入力と同時に一致する国が即座に表示されます一国名の全部を入力する必要はありません。表示されたドロップダウンから国を選択してください。

- 候補を表示するには 2 文字以上入力してください
- 複数のレポーター国を選択して横並びで比較することができます
- 一部の国ではより詳細なデータが利用可能です一例えば米国では地区レベルの輸入データが提供されています（1 ページ目のスクリーンショット参照）

ヒント: ISO コードがわからない場合は、インターフェースの言語で国名を入力してください—GTT は一般的な名称、略称、正式名称を認識します。

2 貿易フロー方向を選択する

「輸入元／輸出先」フィールド②をクリックして、分析したい貿易の方向を設定します。

方向	表示内容
輸入元	選択した相手国からレポーター国に流入する商品を表示します。輸入依存度の分析や相手国の購買動向のモニタリングに活用します。
輸出先	レポーター国から選択した相手国に流出する商品を表示します。輸出実績の追跡や新市場機会の発見に活用します。

3 相手国(パートナー国)を設定する

「相手国(パートナー国)」フィールド③に、貿易の相手方となる国の名前または ISO コードを入力します。同様の先読み検索機能が適用され、入力と同時に結果が表示されます。

- 空白のままにすると、すべての国との貿易を価値または数量でランキング表示します
- 複数の相手国を選択して比較できますー例：ベトナム vs タイ vs インドネシア
- 事前設定でグループを作成している場合は、貿易ブロックやカスタム国グループも選択できます

4 商品 (HS コード) を検索する

「HS コード」フィールド④に、商品の説明（例：「生のカシューナッツ」）または数字の HS コード（例：080132）を入力します。先読み検索機能により、入力と同時に一致するコードと説明が返されますーリストから必要なものを選択してください。

使用するコードがわからない場合は、「HS コード」フィールドの隣にある「探索」リンクをクリックしてください。完全な HS コードブラウザが開き、次の操作が可能です：

- 章レベルから関税品目まで完全な HS 階層を閲覧
- 複数言語でキーワード検索
- 章 → 見出し → サブ見出し → 国別コードへのドリルダウン
- レポーター国の分類に合わせた HS エディション（2017 年、2022 年など）によるフィルタリング


💡 ヒント： 6 桁の HS コードがすでにわかっている場合は、フィールドに直接入力してくださいーGTT が即座に一致させます。より広範な検索の場合は、まず商品説明を入力し、そこから絞り込んでください。

5 期間を設定する

期間コントロール⑤を使用して、レポートの日付範囲を定義します。GTT には 2 つのアプローチがあります：

アプローチ	使用場面
最新 N 期間	新しいデータが届くと自動的に更新されます。手動更新なしで常に最新の状態を保ちたいダッシュボードや保存済み検索に最適です。
固定日付範囲	特定の開始日と終了日を設定します。貿易規制の前後 12 か月など、特定のイベント期間を調査する際に使用します。
最終利用可能	最も最近公開されたデータ期間のみを取得します。現在の貿易水準を素早く確認するのに便利です。

また、左側で**月次・四半期・半期・年次・年度累計**の粒度をクリックして選択することもできます。

 **ヒント：**「最新 3 年間」と Auto Refresh を有効にすると、手動で日付を変更することなく、レポートが常に最新の 36 か月を表示します。

6 データの粒度を選択する

検索条件の設定が完了したら、「**グループ化**」ドロップダウン⑦を使用して、時間列にわたって結果をどのように分類するかを制御します。検索を再実行することなく、詳細レベルを即座に変更できます。

粒度	最適な用途
月別グループ化	最大詳細度—1 暦月につき 1 列。貿易変化が発生した正確な時期を特定する為に使用します。
四半期別グループ化	Q1~Q4 ごとに 1 列。詳細度と可読性のバランスがとれたトレンド分析に最適です。
半期別グループ化	年ごとに H1 と H2。生鮮農産物や農業商品など季節性のある製品の分析に役立ちます。
年別グループ化	1 暦年につき 1 列。長期トレンドの概要や年次比較に最適です。
フローティング四半期	最新利用可能月を終点とするローリング 3 か月設定—部分的な四半期の歪みを回避します。
フローティング半期	ローリング 6 か月設定。現在の暦半期がまだ完了していない場合に役立ちます。
フローティング年別 (推奨)	最新データポイントを終点とするローリング 12 か月設定。現在の暦年が不完全な場合に最も信頼性が高いオプション。

💡 ヒント： まず「年別グループ化」で概要を確認し、次に「月別グループ化」にドリルダウンして特定の貿易変化の正確なタイミングを見つけてください。フローティング年の設定は保存済みレポートに最適です。

7 結果グリッドを活用する

「レポート生成」⑥をクリックすると、検索バー下のグリッドに結果が表示されます。グリッドはインタラクティブです—以下の操作が可能になります：

行と列の入れ替え

青い列ヘッダーリンク⑩（HS コード | レポーター | 相手国 | 期間）をクリックすると、行と列に表示される内容を即座に変更できます。例えば、行ヘッダーの「**相手国(パートナー国)**」をクリックすると、すべての相手国が行に表示され、横並びで比較できます。

任意の列で並べ替え

結果グリッドの任意の列ヘッダーをクリックすると、その列で昇順または降順に並べ替えができます。貿易価値や数量で国、商品、期間を一目でランキングするのに便利です。

過去年との比較

ツールバーの「**X 年前と比較**」オプションを使用すると、現在の結果の横に過去年のデータを重ねて表示できます。比較年ごとに前年比変化率の列が追加され、年次変化が一目でわかります。

💡 ヒント： 「月別グループ化」と「1 年前と比較」を組み合わせると、月次の横並び比較が作成できます—季節パターンや政策変更の影響を最も素早く発見できる方法です。

8 Excel へのエクスポートとグラフ(チャート)表示

Excel へのエクスポート

「グラフ/チャート付きで Excel にエクスポート」⑧をクリックすると、現在のレポートを Excel ファイルとしてダウンロードできます。データ表と埋め込みグラフ(チャート)が含まれ、プレゼンテーションへの貼り付けや共同研究者などとの共有がすぐにできます。グラフ(チャート)なしのデータのみが必要な場合は、ボタン横のドロップダウン矢印から「Excel にエクスポート (データのみ)」を選択してください。

グラフ表示

グラフアイコン⑨(結果エリア左上の棒グラフシンボル)をクリックすると、データグリッドとビジュアルグラフを切り替えられます。グラフは現在のグループ化と期間設定を自動的に反映します—「月別グループ化」と「年別グループ化」を切り替えると、グラフが即座に更新されます。

💡 ヒント: グラフ表示はプレゼンテーションに特に効果的です—検索を実行してグラフ表示に切り替えると、追加のフォーマット作業なしに貿易のストーリーが視覚的に伝えることが可能になります。

クイックリファレンス — ユースケース別推奨検索方法例

調べたいこと	グループ化	期間	ヒント
年次概要を把握する	年別グループ化	最新 3 年間	新市場調査はここから始める
貿易混乱を特定する	月別グループ化	固定日付範囲	イベント前後に範囲を設定
前年比較	フローティング年別	最新 2 年間	「1 年前と比較」を有効化
季節性商品の分析	半期別グループ化	最新 3 年間	フローティング半期も試してみる
全相手国をランキング	年別グループ化	最新 1 年間	相手国フィールドを空白のまま
最新月次データを確認	月別グループ化	最終利用可能	データ利用可能列を確認

サービスの利用方法等 Web 経由での利用説明も常時対応しておりますので、下記 GTT サポートチームへお問い合わせください。

GTT サポートチーム: support_japan@globaltradetracker.com